

# 錦上添花

錦ヶ丘中学校  
学校便り  
2月7日発行 NO.33  
文責 出崎 友英

## 鬼の宿

今年は2月2日が節分でした。節分と聞くと、もうすぐ春がやってくるぞという気持ちになります。

節分に太巻きのお寿司を、その年の縁起が良いとされる方角を向いて無言で丸かじりする「恵方巻き」という関西発祥の風習もずいぶん広がっていますが、私は節分といえば、やはり「豆まき」を思い浮かべます。「鬼は外、福は内」と言いながら、豆をまいて鬼を家から追い出し、家内安全、無病息災を願う風習です。

ところで、それぞれの家から追い出された鬼は、いったいどこへ行くのでしょうか？

皆さんは、追い出されて行くところがなくなった鬼に宿を提供している家があることを知っていますか？

その素朴な人情、やさしい心に、私たちの心も温かくなる気がします。今週はこの話を紹介します。

東京の小平市、青梅街道沿いにある小山家では、昔から節分の日になると「鬼の宿」という行事が行われています。小山家の先祖は大きな油屋でした。ある日主人の小山馬蔵が、家の人たちを集めてこう言いました。

「毎年節分になると、どこの家でも『鬼は外、福は内』と、豆まきをして鬼払いをするが、よその家から追い出された鬼をこの家に迎え入れてごちそうをして、それからあらためて送り出す。来年からこんな風に節分の日行事を変えようと思うが、みんなはどう思うか？」

それを聞いた家人たちは、「よその家から追い出された鬼を招き入れるなんてとんでもない。」「お客さんも恐がって寄りつかなくなります。」と、猛反対しました。

みんなの意見を黙って聞いていた馬蔵は、落ち着いた声で「鬼の心を思うと、追い出すだけではとても鬼の毒だ。たとえ鬼であっても、こっちが心を開いて接すれば、きっとわたしの心がわかってくれるはずだ。悪いことばかり運んでくるはずがねえ。」と言いました。

その言葉を聞いていた人たちは、誰からともなく「そうだ。だんな様の言うとおりのだ。」と言出し、「そうだ、そうだ。」と声次々に出て、小山家はその次の年から、節分の日夕方に鬼を迎え入れてごちそうをして、夜中の12時過ぎに帰っていく鬼をみんなで見送るようにしたのです。

そのおかげなのかどうか、油屋はますます繁盛し、いつしか小山家のことを「鬼の宿」と呼ぶようになったのです。



現在の小山家の当主は、「親からの言い伝えで『鬼の宿』をやっています。私で4代目です。他の家で嫌われて追い出された鬼でも助けてやらなければという思いで『鬼の宿』を続けています。おかげさまで代々幸せに暮らしています。」と話しておられるそうです。

## 新入生・保護者説明会

2月7日(金)、来年度入学予定の6年生とその保護者の方々への**入学説明会**を、本校体育館で行いました。寒さが厳しい折でしたが、6年生と多くの保護者の方々にご来校いただきました。会の中で、生徒会執行部の皆さんが中学校生活の様子を説明している様子や、受付や案内をしている時の態度がとても立派で、ご参加の小学校の先生方や保護者の方から好評でした。生徒会執行部の皆さん、おつかれさまでした。6年生とその保護者の皆様、そして引率いただいた小学校の先生方、ご来校ありがとうございました。



「錦ヶ丘中クイズ」に手をあげて答える6年生

## ◆お知らせです。

○2月1日(土)、「熊本県中学校新人バレーボール大会」が八代市のトヨオカ地建アリーナで行われ、本校の男子バレー部が優勝しました。昨年度に続いて今大会2連覇となり、3月に開催される九州大会に出場します。男子バレー部の皆さん、おめでとうございます。九州大会でのさらなる躍進を期待しています。

○熊本市人権啓発市民協議会主催の「令和6年度ラブミン人権啓発作品募集」絵・ポスターの部において、1年生の○○○○さんが優秀賞、○○○○さんと○○○○さんがそれぞれ入選に輝きました。それぞれの作品は、来年度の「人権カレンダー」などに掲載されるとのことです。3人の皆さん、おめでとうございます。



冬があり 夏があり 昼と夜があり 晴れた日と雨の日が  
あって ひとつの花が咲くように 悲しみも苦しみもあって  
私が私になってゆく。  
星野 富弘の言葉